

大阪錦画日々新聞紙 第六号



文花山人述

報知五百五十五号 笑話ス

明治七年正月、滋賀縣下北三區小学教員藤田庸中ハ酒樽小独樂一五音五餅ヲ  
 泥小廻り車ヲ補けのせり新聞通  
 除らるるを見たり庸中ハ  
 ちねきし車上をさひひり  
 まぐ至味の茶を人統  
 ひりゆる風骨を一枝  
 折て活かると袖と裾とふ  
 なを切れて花をいりある鬼馬の這り  
 まんよりふ女子の駭きさらへし神をさり切  
 雪散乱とてさるるを翁の香をさるるわいも  
 さらそ轉を人取さるとさるるふ有様敬言察官  
 見とめらるる肩へさるる一振舞ハるるも白日くら  
 やみのさるるの嗅名歎手以テ耻ヲ可けんやと

更んから折り美しがるる女子入車を

眞信画

形九一

海岳板  
富工政板